

## 金日成・金正日主義はグローバル化と対峙できる唯一の思想

ロシア、極東連邦総合大学教授  
ゲンナジー・クリコフ

金正日総書記は金日成主席の思想と自分の思想の差は何かという質問にたいして、根本的な差はないと答えました。主席と総書記の思想は時代の挑戦と変化する情勢に即して発展された一つの学説として互いに対峙させられないのです。

そうです。すべての偉大な学説（チュチェ思想がまさに偉大な学説に属します）は全一性を志向しながら発展します。その過程に初めて示された思想が実践によって検証され、実践によって補足され、以前には解明できなかった社会の部分を解明するようになります。

金日成主義と金正日主義は一つの思想です。われわれの意見は、それは哲学であり、社会政治学説であり、経済学的見解であり、それぞれの人文科学と自然科学が到達するようになる結論だということです。

新たな思想は世界的な科学的思想の共通の発展方向で抽象できるものではないのです。新たな思想は党の綱領と社会の実態に合わせてそれを包括し、加工します。

現代は資本主義が死滅していく、そのもっとも反動的な部分であるアメリカ帝国主義の世界制覇思想が死滅していく一つの段階であり、全人類の実践によって豊富化された形態でおこなわれる社会主義のための闘争の時代です。

世界制覇思想は国家を建設し維持する人民の自主権と自主性を圧殺しようとする実践思想です。

ゆえに、帝国主義の世界制覇に反対する闘争は人間、より幅広い範囲では全人民の自主と創造、集団主義のための闘争の一部となります。

世界制覇主義に反対する闘争は勤労する人間、自己の運命の主人である人間のための闘争です。

チュチェ思想は実践的具現によって豊富化された学説です。それは社会の発展とともに豊富化され、その深奥な人道主義的価値で検証されて証明されます。

チュチェ思想を創始し、発展豊富化させたのは朝鮮人民の偉大な領袖たちである金日成主席と金正日総書記、金正恩総書記の不滅の業績です。

チュチェ思想の創始者は朝鮮人民の偉大な領袖である金日成主席です。

金日成主席は大胆な革命家、日本帝国主義の占領と国の植民地化に反対し、朝鮮の独立と主権のために戦った闘士、アメリカ帝国主義に反対して戦った闘士、偉大な国家活動家、政治活動家、軍事活動家、党活動家として朝鮮の歴史に記録されました。朝鮮民

民主主義人民共和国の創建者であり、1948年から1994年まで共和国を指導しました。

われわれは主席の多面的な活動の全般を考察しようとはしません。

主席の活動はこの文書には全部記しがたいほど膨大で雄大です。

われわれはその一つを、しかし非常に重要な側面を言及しようと思います。

朝鮮人民の偉大な金日成主席は自主思想であるチュチェ思想の創始者として歴史に記録されています。われわれは今日、世界のどの国でも思想がそんなに重要で不滅の役割を果たすことを見出せませんでした。

朝鮮民主主義人民共和国で主体性を確立するための闘争が強化されたのは1950年代の中葉です。その時からこの独創的な思想の役割と意義は大きくなるばかりでした。

朝鮮でチュチェ思想が果たした創造的な役割の前提となったすべての条件をわれわれは外的なものとの内的なものに区分しますが、どれがより大きな作用をしたのかは論じません。

外的な条件には国の境外からかもし出された条件が、内的な条件には朝鮮民主主義人民共和国が経過した過程自体によってかもし出された条件が当たります。

外的な条件には日本帝国主義が1905年から実施した植民地支配と二回にわたる戦争、つまり1945年に日本帝国主義からの解放で終わった民族解放戦争と1953年に朝鮮人民の勝利に終わったアメリカ帝国主義との戦争を挙げることができます。

英雄的朝鮮人民が侵略者に反対してくり広げた武装闘争では犠牲が伴いました。実際に犠牲はありました。

その間に破壊された国の生産力を復旧すること、それも単なる復旧ではなく、20世紀の水準に合わせて建設することはもちろん重要でしたが、極めて複雑なことでした。

戦争が終わった後、半島は朝鮮民主主義人民共和国と「大韓民国」に分裂されました。当時、米軍は南朝鮮に駐屯し、今日も引き続き居残りながら緊張と挑発の恒常的な源泉となっています。

複雑な対外情勢は現在まで続いています。それは平和条約が締結されず、統一を妨害しているからです。

内的な条件としては朝鮮民主主義人民共和国が日本帝国主義の占領から解放された直後、直面した難関を挙げることができます。

それは国家機構と政権党を創建する問題、つまりその人民的性格を証明する全体的な政治主権と体制を確立する問題でした。そして初期には諸般の民主主義的課題の遂行と社会主義社会の建設をめざす正しい戦略戦術を確立する問題でした。

大衆を教育してまず、大規模の工業と近代的なインフラ、科学、文化を建設し、農村文化を近代的な要求水準へと引き上げなければなりません。

ソ連と他の社会主義諸国の実践で解明された社会主義建設の一般的な合法則性を考

慮して諸問題の固有で民族的かつ歴史的な解決方式を探さなければなりませんでした。

そういう方式をどう探しました。それはチュチェ哲学を適用し、それに基づいて労働者階級、全朝鮮人民の利益を反映した路線を作成することでした。

複雑な対外的条件、自主国家である朝鮮民主主義人民共和国の内政にたいするアメリカの直接の武装干渉脅威が存在することにより、国の武力強化にも関心を払わなければならなかったし、それは銃剣重視、軍事重視路線に反映されました。

チュチェ思想を創始し、実践に具現した業績は疑うことなく金日成主席の業績です。主席は現代の社会に必要な多くの社会的要因の中で思想という要因も探し出したのです。

内的な条件には朝鮮人民の指導者、偉大な領袖である金日成主席と、その後継者である金正日総書記、金正恩総書記がくり広げた理論、哲学、政治思想活動を挙げることができます。

朝鮮民主主義人民共和国は当時の「マルクス・レーニン主義、スターリン主義」学説で示した伝統的な道を選びませんでした。西欧とソ連の現実で創始された学説は数十年間日本帝国主義の植民地民族としての惨状を経験し、米軍部の干渉によって苦痛を強いられてきた朝鮮人民が処した現実に合いませんでした。民族解放が成し遂げられた条件は民族的伝統を固守し、活用することを要求しました。哲学分野も含まれていました。

ここでわれわれは朝鮮民主主義人民共和国の永遠なる主席である金日成主席の後継者である金正日総書記が1994年11月1日、朝鮮労働党中央委員会の機関紙「労働新聞」に発表した著作「社会主義は科学である」に注意を払おうと思います。

著作は炸裂する爆弾のような効力を発揮しましたが、瞬く間に世界のすべての国の社会主義理論家だけでなく、その裏切り者の関心の種ともなりました。

われわれは当時、諸国が相次いで、政治家が次から次へと社会主義を譲歩し、共産党が禁止され、さまざまな口実のもとに解散させられ、党員証を焼却していたことを記憶しています。

まさにその時、社会主義にたいする大々的な背信と偽り、誹謗によって息詰まる陰鬱な環境の中で一口の澄み切った空気、新鮮な風のように「社会主義は科学である」という確信にみちた声が響き渡りました。

社会主義は今日も数百万の人々の心の中に生きています。社会主義は数百万の人々の労働によって生きています。社会主義は自己の障壁を明け渡さないだろうし、帝国主義の前に頭を下げないだろうし、核脅威と封鎖、国境挑発も社会主義を驚かせないでしょう。いかなる「歴史の終焉」も、社会主義の終焉もないでしょう。

なぜなら、社会主義は朝鮮民主主義人民共和国と中国、ベトナムとキューバの現実であり、ヨーロッパの労働者階級の抗議闘争であり、アメリカ青年の闘争であり、ラテン

米州のパルチザンであり、アラブ世界の抗争だからです。

太陽のように単純で明白な著作のくだりは確信と安定を与えました。

「多くの国における社会主義の崩壊は、科学としての社会主義の失敗ではなく、社会主義を変質させた日和見主義の破綻を意味する。社会主義は日和見主義によって一時的に心痛に耐えない曲折を経てはいるが、その科学性、真理性によって必ず再生し、最終的に勝利を取めるであろう」

社会主義は自主、自由、独立、社会的正義と平和にたいする人民大衆の志向です。

その通りです。歴史の前段階の中でいずれも 20 世紀のように人民大衆の激烈な革命のおよび改革的進出、平和的および非平和的進出、大衆的な進出を知りませんでした。

大衆が街頭に進出しました。大衆は変革を要求しました。もう誰も彼らを歴史の外に追い出せないでしょう！

大衆の中で生き、大衆とともにおり、大衆を組織し、大衆のように受け止めよう！

多くの社会主義理論家がこれに気づき始めました。しかし、彼らはここから該当の結論を見出せませんでした。

しかし、勤労する人民大衆は自主性を志向し、自己の運命を自分で開拓しようとしてきました。

まさにこれは歴史がわれわれに教える結論です。

これを一番先に認識し、解答を与えた方がほかならぬ朝鮮人民の偉大な領袖たちである金日成主席と金正日総書記、金正恩総書記であり、この方たちによって全世界に公開されました！

まさにこれは歴史に未永く伝えるべき偉大な領袖たちの功績です！